

## 拠点

### 拠点1 子どもの生活研究所【療育】

#### 1. 事業概況（運営方針・目標の実施状況）

めばえ学園、おおらか学園、東京都発達障害者支援センター、さらに保育所（すこやか園・宇奈根なごやか園）などの事業所の実質的な運営を有機的に連携させた「クローバーシステム」を基盤として、子どもの生活研究所こぐま学園、特定相談支援事業所との関係も含めて法人内の他の事業との協力体制を図りながら、事業運営を行った。

社会福祉法人嬉泉の基幹となる療育・保育の実践学習の場として、受容的交流理論の継承・発展に取り組み、職員の質的向上務めると共に、法人の職員研修の場としての位置づけであるが、今年度に関してはコロナ禍のために職員の交流がほとんどできなかったため、内部研修に関してはこぐま学園が多少機能したくらいにとどまった。

また、公益的な取り組みについても、同様に中止となることが多く、後半に多少の連携などの動きができるようになったが、例年と比べると少なかった。今後は、オンライン等の活用で可能なところは積極的に参加するように環境も整備していく。

#### 《子どもの生活研究所・こぐま学園、相談支援事業所》

世田谷区による「特定相談支援事業」「障害児相談支援事業」の指定を受け、めばえ学園、おおらか学園、赤塚福祉園の利用者を中心に、その他の事業所を利用する区内の利用者も含め、サービス利用計画を作成し、サービス利用の援助を行った。また支援会議を開催するなど地域の相談機関、サービス提供機関と連携を図りながら相談支援事業を実施した。その中で、一部の利用者の保護者より、相談支援専門員の対応およびサービスの提供内容等に関する苦情を受けることがあった。これについては、管理者が対応し謝罪含め改善に向けた説明等を行なった。

こぐま学園は自主運営の通所療育機関として、年齢や、地域、所属先にかかわらず、専門的な療育支援を発達障害児・者、及び家族への支援を実施している。法人独自の事業としての特質を生かし、利用者との信頼関係に根ざした一貫性のある支援の継続に努めた。

運営に関しては、利用者の方からの月謝のみでの運営を行っている独自の事業であることから、運営体制の見直しを行ってきている。また法人内にて職員研修の場として位置づけての事業であり、各事業所との協体制の下で運営した。今後も引き続き運営体制の整備を検討し実施していく。

今後も、法人内事業所との有機的な連携をはかり、さらに子どもの生活研究所内での一体的な運営を目指す。本年度は14名の利用があった。こぐま学園を卒業した利用者のうち希望する5名に対し、有料相談を延べ10回行った。その需要に対しては子どもの生活研究所にて職員を調整して対応した。

#### 《めばえ学園》

児童発達支援センターとして受け入れの幅を広げると同時に多様なニーズに対応し、乳幼児期の療育をさらに強化していけるように、幼児期の療育意義の啓発、普及に努めた。

主に自閉症をはじめとする発達障害を抱える乳幼児に対し、生活の安定を図るとともに「人として基盤となる人間関係と自我を育てる療育実践」を行った。同時に子育ての主体である家族が子どもの実態を理解し、自信を持って子育てにあたれるようになるための支援に努めた。

年度当初は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言により、事業運営を縮小して行うこととなった。しかし、幼稚園や保育園に移行する児童については併用先が休園となり、児童や保護者にとっては見通しが持てない状況の中、めばえ学園での利用を増やすなど柔軟に対応した。また、養育困難な家庭においては虐待等に繋がらないように通常通りの通園を維持すると同時に主に母親へのサポートをより強化した。父親のリモートワーク等、これまでの家庭生活の環境が変わることで、母親が父親と養育に対し協力体制をとれる場合もあるが、母親自身がよりストレスを抱え、不安定さが増す状況も見られた。心療内科等に繋がるケース、児童相談所、子ども家庭支援センターに繋がるケースも出てきてことから、より細目に丁寧に母親

の話に傾聴や助言等を行い、母親の気持ちに寄り添い、不安感の軽減に努めると同時に関係機関と情報共有をしっかりと行った。その経過の中、短期入所利用に繋げるケースや退園児や卒園児の母親からの相談にも応じたり、また感染防止に十分に注意をしながら少人数での保護者会、療育勉強会、クラス懇談会を実施し、なるべく母親同士交流の機会を持つようにした。コロナ禍の中、児童や保護者の不安軽減や生活の安定に向けた支援を検討しながら取り組んだ。

運営面においては、年々幼稚園や保育園の併用利用も増えてきたことで収入減による運営面の困難さが課題としてあげられている。年度当初はコロナ禍の中、事業の縮小等もあり利用実績に影響が出たものの、その後は昨年度よりは徐々に実績も増加状況が見られた。しかしまだ安定した事業運営とはいえないことから、引き続きの課題とする。療育体制の見直しの中、記録書式の簡素化や仕事の効率化を図ることについては改善がみられた。

#### 《おおらか学園》

支援においては、「受容的交流理論」の理念に基づき、個々の利用者が家庭及び地域社会の中で心身ともに安定し、より良い生活を実現することを目指した支援活動を行うことを基本として引き続き行っている。そのために、4月当初からコロナ禍の緊急事態宣言などによる対策から、区立施設においては利用の自粛を求めたり、出席制限を設けたりしている世田谷区の状態であったが、おおらか学園では、家庭だけでは過ごすことが難しい重度の障害を持つ利用者の特性を考慮して通常通りの開園をしていた。結果としては、2名ほどの利用者がある期間通所自粛をしていたが、5月には皆通所してくる状況になった。しかしながら、外出の支援などの、より幅広い活動の経験を取り入れて、動きの柔軟性を持てるように支援を行う計画は、コロナ禍の下でほとんどの外出の支援を中止せざるを得ない状況であったため達成されていない。反面、マスクをするとか、消毒をする、日課が変更になるなどの点では、イレギュラーなものを受け入れて対応する経験を積むことになった。

家庭生活においては、情勢の変化の影響が強かった。多くの利用者が月に1週間ほど利用している袖ヶ浦のびろ学園をはじめとしたショートステイ事業所の受け入れ中止があり、家庭のレスパイトや利用者本人の生活リズムの調整ができなくなり、さらに通常の日課や楽しみにしていた外出がほとんどできなくなるによる影響で、家庭生活が成り立たないほどの不安定さを呈する利用者も数名出てしまった。何とか工夫して外出したり、精神科病院に入院して薬の調整をしたり、対応に苦慮するところがあった。

保護者の高齢化や病気等に伴う、本人を含めた家庭状況の変化と多様な支援ニーズに対応するため、世田谷区及び他事業者等、関係諸機関との連携をより一層強化して支援に努めているところではあったが、主とした養育者であった高齢の家族が亡くなり、地域や家庭での生活が出来なくなってしまった利用者が出たこともきっかけとなり、再度将来を視野にいたれた本人及び家族の生活を柔軟にサポートしていけるような支援体制を目指して家族に提案した。数家族が新たにショートステイ事業者を使うようになったり、移動支援事業者を増やすようになり、少しずつではあるが、地域の資源を使い有事の際の対応がしやすくなってきている。一部の家族は、いまだ家庭のみで抱えて、地域の資源を使うことに必要性を現時点で感じていなかったりといったことで、すすんでいかない状況があるので、相談支援体制との連携の下、提案をしていきたい。高齢の家族が亡くなった利用者は、ショートステイを長期に利用しながら入所施設の待機をすることになり、退所になった。

対外的には、自立支援協議会、地域リハビリテーション実務者連絡会等は、軒並み開催中止になってしまったが、せたがや福祉区民学会への参加は文書にて出来、ケーススタディを上げた。

職員の研修は、オンラインのものが中心になったが、人権擁護を中心に必要なものには参加し、嘱託精神科医のケース検討会や拠点での虐待防止研修、法人の研修に参加した。

利用実績は、袖ヶ浦のびろ学園の短期入所の利用がほとんどできずに、利用者の短期入所利用時の欠席が非常に少なかったことと、日々100パーセントを超えての利用があったため、増収させることができ、同じ拠点の利用者の利用率が低いめばえ学園や開園がほとんどできなかったこぐま学園の運営を支えるとともに、法人の運営に寄与することとなった。

## 《東京都発達障害者支援センターtosca》

相談支援と区市町村の発達障害者支援体制整備に向けてのバックアップの二つの柱で運営した。ここ数年は後者の比重が高まっており、その傾向は引き続けている。

相談支援では、実件数が2,228件で、そのうち未受診・未診断が半数以上を占めた。また相談内容としては、診断・相談・支援を受けられる機関について、現在の生活に関わることについてのことが主流であった。

後者については、地域支援マネージャーを中心として、区市町村の支援体制整備に向けた助言、区市町村事業への協力、事例検討会への参加を含めた機関コンサルテーション、また行政・教育・雇用就労・司法・福祉関係機関等が計画する研修等へ講師派遣等を行った。研修講師の依頼、事例検討会への参加を含めた機関コンサルテーションの要請等は、引き続き増加傾向にあった。そしてセンター主催の区市町村の地域連絡会については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令により一部中止としたが、特別区・市町村別に6回開催した。年度を追うごとに出席者の目的意識が明確化され、活発な意見交換がなされた。

また本年度は、困難事例に対する発達障害者支援センターの機能強化と、成人期の発達障害者やその家族に対する地域における支援力向上を図ることをねらいとし、精神科医に概ね年12回、弁護士に概ね年3回来所して頂き、ケース検討会を設定する等して、職員へのスーパービジョンを実施した。

さらに、東京都ペアレントメンター養成・派遣事業を受託し企画・運営を行った。本年度新たに21名のメンターを養成し、計117名による138回の活動を行った。本事業は、各区市町村が独自にペアレントメンター事業を実施していく体制づくりを目指しているが、本年度は新たに事業を開始する自治体はなく、昨年度同様、4区市町村にとどまった。そのため、引き続き普及啓発が課題となっている。

そして東京都より法人が受託し、東京都発達障害者支援センターが事務局を担っている東京都発達障害者支援者支援体制整備推進事業については、本年度より発達障害者相談支援スキルアップ研修に、成人期発達障害者支援力向上研修が加わり、行政および支援機関の中堅職員を対象とし実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実技研修および実地研修については中止としたが、その他の研修については感染拡大防止を徹底し、定員の削減、研修形態の変更等の対応を取り実施した。

## 2. 月間・年間行事等実施状況

別紙のとおり。

その他

- ・定期健診・生活習慣病予防健診の実施状況

各自で受診のため別々。

職員定期健診・めばえ・おおらか・トスカ・相談・こぐま 16人

生活習慣病予防検診・めばえ・おおらか・トスカ・相談・こぐま 15人

- ・ストレスチェックの実施

## 3. 職員体制

\*別紙組織図を添付

## 4. 職員研修

### めばえ学園

期日	研修名	開催場所	参加職員
7/29	幼児期の発達障害児の支援・家族支援を考える	東京都社会福祉保健医療センター	保育士1名

8/ 20	発達障害のある人たちへの支援～年齢別の生活に合わせる	成城ホール	児童指導員1名 看護師1名
9/ 16	普通救命講習（AED）	狛江消防署	児童指導員1名
9/ 29	せたがやノーマライゼーションプランシンポジウム	成城ホール	園長
11/ 11	普通救命講習（AED）	芝消防署	保育士1名
11/ 14	上級救命講習（AED）	成城消防署	児童指導員1名
11/18	砧エリア自立支援協議会	成城ホール	園長、児童指導員1名 看護師1名
11/ 21 22	社会福祉士実習指導者講習会	千葉県経営者協会	児童指導員1名
12/11	新型コロナウイルス感染症対策BCP（オンライン研修）	東京都発達障害支援協会主催 オンライン開催 子どもの生活研究所	副園長（児童発達支援管理責任者）
1/ 16	秩父学園自閉症子育て支援セミナー（オンライン研修）	秩父学園オンライン開催 子どもの生活研究所	看護師1名
1/ 25 2/ 5・18	障害者施設職員支援力向上研修 個別支援計画と記録 （オンライン研修）	世田谷区福祉人材・研修センターオンライン開催 子どもの生活研究所	児童指導員1名
2/ 3	権利擁護研修～発達障害の理解と支援の基本姿勢（東京都発達障害者支援センター長 辻田 講師）	子どもの生活研究所	職員全員
2/ 13	支援者の為の研修会発達に偏りがある女の子の理解（オンライン研修）	白梅学園大学オンライン開催 子どもの生活研究所	児童指導員1名
2/ 12・15	せたがや福社區民学会発表事例（オンライン研修）	せたがや福社區民学会主催 オンライン開催 子どもの生活研究所	児童指導員3名 保育士2名 看護師1名
2/ 12	ご家族とのコミュニケーション オンライン研修	東社協オンライン開催 子どもの生活研究所	児童指導員1名
2/25	臨床動作法と愛着臨床アプローチ（嘱託講師 藤岡孝志先生）	子どもの生活研究所	職員全員
3/ 13	全体研修	子どもの生活研究所	職員全員
3/ 16・ 17・18・ 19	障害児施設職員研修 障害児の理解と支援オンライン研修	世田谷区福祉人材育成・研修センターオンライン開催 子どもの生活研究所	児童指導員1名 保育士1名

#### おおらか学園

期日	研修名	開催場所	参加職員
7/1～ 8/30	虐待防止と権利擁護	オンラインリモート研修	支援員 1名
8/18 ～20 25	東京都強度行動障害支援者養成研修	オンラインリモート研修	支援員 1名

9/7	自閉症の特性と支援のアイデア 私の支援者ヒストリー	オンラインリモート研修	支援員 1名
10/12	社会福祉従事者人権研修Ⅱ 現場から見えてくる人研修	東京都社会福祉保健医療研修センター	支援員 1名
10/13	発達障害者相談支援スキルアップ研修 成人期の発達障害者の支援・家族支援を考える	ワイム高田馬場	支援員 1名
10/30	社会福祉従事者人権研修Ⅱ 現場から見えてくる人研修	東京都社会福祉保健医療研修センター	支援員 1名
11/4	世田谷区福祉避難所研修 災害報道の特徴と避難行動 訓練デモ	世田谷区立保健医療福祉総合プラザ	支援員 1名
11/13	Soufuku 講座 嚙下障害の理解とケア	世田谷区立保健医療福祉総合プラザ	支援員 1名
12/11	新型コロナウイルス対策 BCP を活用する	オンラインリモート研修	支援員 1名
1/15 ～ 2/15	せたがや福祉区民学会 事例発表	紙面、ウェブページ	主任支援員 1名
2/26	世田谷区施設長研修	オンラインリモート研修	園長
3/4	法人職員全体研修バズセッション	おおらか学園内	全員
3/13	虐待防止研修	おおらか学園内	全員
3/13	法人職員研修	おおらか学園内	全員

相談支援事業所

期日	研修名	開催場所	参加職員
11月 4日	TOSCA 成人期の発達障害のある人たちの生活と就労の現状と課題	ワイム貸会議室 荻窪	相談支援専門員
11月 16日	TOSCA 支援困難事例検討会「触法関連ケース」	ワイム貸会議室 お茶の水	相談支援専門員
3月 4日	世田谷区エリア自立支援協議会 親子ともに歳を重ねた世帯（8050） 世帯への“働きかけ”を考える	Web	相談支援専門員

東京都発達障害者支援センタートスカ

期日	研修名	開催場所	参加職員
5月28日 6月18日 7月30日 8月27日 9月24日 10月8日 11月5日 12月10日 1月7日 2月18日 3月18日	嘱託精神科医によるケース会	子どもの生活研究所	センター長他 相談支援員
6月9日 10月1日 3月11日	嘱託弁護士によるケース会	子どもの生活研究所	センター長他 相談支援員
6月28日	W A I S-IVの実施・集計・解釈の実際	Web	相談支援員1名
7月29日	大田区わかばの家内部研修 口腔機能・嚥下に関する研修	大田区わかばの家	相談支援員1名
8月20日	本田秀夫講演会 発達障害について	Web	センター長
9月2日・9日	トスカ内 W I S Cに関する勉強会	子どもの生活研究所	センター長他 相談支援員
9月5日	全連協中国・四国ブロック合同企画研修	Web	相談支援員1名
9月5日	発達障害のある青少年のインターネット利用を考えるオンライン講座	Web	センター長
9月6日	NHKハートフォーラム 子どもの発達障害	Web	センター長
11月18日	トスカ内 K-A B Cに関する勉強会	子どもの生活研究所	センター長他 相談支援員
11月25日	大人の発達障害者への就労支援 シンポジウム	Web	相談支援員2名
12月12日	性のトラブルと向き合う	Web 株式会社TKC東京本社	センター長 相談支援員4名
1月13日	依存症対策啓発フォーラム	Web	相談支援員1名
2月8日	高次機能障害者相談支援研修会	Web	相談支援員1名

5. 実習生等の受入

**めばえ学園**

ア 実習生	総数	13名
東京都市大学		1名
十文字学園女子大学		1名
目白大学		1名
白梅学園短期大学		1名
東洋英和女学院大学		1名
大妻女子大学		2名
和光大学		1名
学研アカデミー		1名
日本大学		1名
川口短期大学		1名
聖徳短期大学		1名
日本児童教育専門学校		1名
イ 研修		
なし		
ウ 見学	総数	37名
入園希望者保護者		20名
訪問看護ステーションソフィア経堂		2名
東京都教育庁指導部特別支援教育指導課就学相談担当		2名
狛江市教育委員会教育部教育支援課就学相談担当		2名
狛江市 保健福祉部福祉相談係		1名
狛江市立三島保育園		4名
都立しいの木特別支援学校、副校長・教諭		2名
多摩児童相談所世田谷分室		2名
コペルプラス二子新地教室主任児童指導員		1名
エ ボランティア		なし

**おおらか学園**

ア 実習生	総数	4名
東洋英和女学院大学		1名
十文字学園女子大学		2名
東京都市大学		1名
イ 研修	コロナ禍のため中止	
独立行政法人国立特別支援教育研究所専門研修（年2回）		中止
東京都発達障害スキルアップ実地研修		中止
ウ 見学	総数	7名
東京リハビリテーションセンター世田谷（利用者の短期入所先）		5名
ウイッシュケアサービス（利用者の短期入所先）		1名
どんぐりホーム		1名
エ ボランティア		なし

## 年 間 行 事 等 実 施 状 況

項 目 月	行 事				職員研修・職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理		そ の 他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月	24日	誕生日会 (おおらか)			16日	職員会議(週1回) クローバ運営会		防 災 訓 練	27日	身体測定 体重測定 衛生委員会	15日	経営会魏
5月	26日	誕生日会 (おおらか)			28日	職員会議(週1回) クローバ運営会		防 災 訓 練	25日	体重測定 衛生委員会	27日	経営会議
6月	10日	誕生日会 (おおらか)	1			職員会議(週1回)		防 災 訓 練	19日	衛生委員会  体重測定	26日	理事会監 事監査差 経営会議 園長会
7月	3日 7日 11日	利用者健康診断 (おおらか) 七夕 (めばえ) 土曜日開園 (おおらか)	28日 29日	保護者会・藤岡先生療育勉強 会 (めばえ) 誕生日会 (おおらか)	2日 30日	職員会議(週1回) クローバ運営会 クローバ運営会		防 災 訓 練	9日 17日	内科検診 (めば え) 体重測定・ 衛生委員会	22日	経営会議
8月	11日 15日 28日	水遊び (めばえ) 夏季休園 (おおらか) 土曜日開園 (おおらか) 誕生日会 (おおらか)			20日	職員会議(週1回) クローバ運営会		防 災 訓 練	31日	) 体重測定 衛生委員会	19日	経営会議
9月	14日 15日 16日	プール (おおらか) 藤岡先生を交えてのクラス懇談会 (めばえ) 卒園児アフタファオローすすみグ ループ (めばえ)	26日 28日	土曜日開園 (おおらか) 誕生日会 (おおらか)	17日	職員会議(週1回) クローバ運営会		防 災 訓 練	18日	衛生委員会 ) 体重測定	15日 29日	経営会議 理事会

10月	1日 3日 12日 19日  21日	プール (おおらか) 土曜日開園 (おおらか) プール (おおらか) プール (おおらか)  卒園児アフタフォローすすみグループ (めばえ)	27日 29日	藤岡先生を交えてのクラス懇談会 (めばえ) 利用者健康診断 (おおらか)	6日  22日	職員会議(週1回) ケース検討会 (おおらか)  クローバー運営会		防 災 訓練	16日	) 体重測定 衛生委員会	21日 19日	経営会議 園長会 評議委員会
11月	2日  26日 28日	藤岡先生を交えてのクラス懇談会 (めばえ) 誕生日会 (おおらか) 卒園児アフターフォローすすみグループ。 (めばえ) 土曜日開園 (おおらか)			20日	職員会議(週1回)  クローバ運営会		防 災 訓練	20日	体重測定 衛生委員会	28日 13日	経営会議
12月	3日 7日 10日 14日	利用者健康診断 (おおらか) プール (おおらか) 利用者健康診断 (おおらか) プール (おおらか)	25日 26日	クリスマス会(めばえ) (おおらか) 土曜日開園 (おおらか)	24日	職員会議(週1回) クローバー運営会		防 災 訓練	18日	体重測定 衛生委員会	23日	経営会議 園長会
1月	15日 18日	利用者健康診断 (おおらか) 利用者健康診断 (おおらか)	25日	利用者健康診断 (おおらか)	28日	職員会議(週1回)  クローバー運営会		防 災 訓練	15日	衛生委員会	19日	経営会議
2月	1日 2日 8日 10日 15日	利用者健康診断 (おおらか) 節分 (めばえ) 利用者健康診断 (おおらか) 誕生日会 (おおらか) 利用者健康診断 (おおらか)			3日 10日 25日 18日 25日	人権擁護研修 (めばえ) 職員会議(週1回) 職員全体研修 バズセッション クローバー運営会  クローバー運営会 藤岡先生職員勉強会		防 災 訓練		体重測定 衛生委員会	5日 24日 17日 19日	経営会議 経営会議 園長会 理事会

								19日				
3月	3日	ひなまつり (めばえ)	27日	卒園の会 (めばえ)		職員会議(週1回)		防 災		体重測定	3日	経営会議
	8・10	クラス別保護者会 (めばえ)	30日	労働報酬支給 (おおらか)	13日	新任職員研修		訓練	19日	衛生委員会	17日	園長会
	1・17・19	卒園レクレーション (めばえ)			18日	全体職員研修 クローバー運営会					31日	園長会